

## 編集後記

本号では、専門家のご協力を頂き、当財団が（独）原子力研究開発機構とともに開発・整備に携わってきたPHITSコードの利用に関するご研究や当財団も開発に携わってきた（独）海洋研究開発機構の地球シミュレータと関連したご研究等を掲載することができました。また、巻頭言として、（独）海洋研究開発機構の今村理事から、日本国際賞受賞者のメドウズ博士の業績に関連した誠に含蓄に富む原稿を頂きました。その直後、平成21年5月12日の朝日新聞朝刊に博士のお人柄が偲ばれる記事が見受けられました。それによると、博士は賞金5000万円の半分を「持続可能な技術社会形成」を支援する基金に寄付し、残りは米国ニューハンプシャーにあるご自宅の改修に充て、「古くなった家をもっとエネルギー効率の良い家に改造し、見本を示したい。脱石油を目指し、太陽光発電を自宅に入れる。薪

は自分で割る。こつが分かっているので何時間でも続けられる。若い人には負けない。」と言われたそうです。地球環境の保全には全世界の一人ひとりがその人に見合ったやり方で取り組まねばならないと思いますが、実践の先頭に立つ博士の偉大さに思いを致しました。

さて、このたびの公益法人制度改革におきましては、公益事業の判定要件のひとつとして「研究開発・調査研究等の結果を不特定多数の者に公表しているか」というチェックポイントが設けられていますが、この観点から、RISTニュースは当財団にとって、より大きな役割を担ってくるものと考えています。今後も当財団の研究開発・調査研究等の成果の公表に大いに活用していきたいと考えております。ご協力に御礼申し上げます。

（山岸）